

問一

次の例のように、主語に 線、述語に 線を引きましょう。

- ① 母が かんばんを 描きました。
- ② 私も メニューを 考えました。

主語は「何が・だれが」の部分にあたる言葉、述語は「どうする・どんなだ・ある・いる・ない」の部分にあたる言葉だったね。



- ③ キッチンでは 父が 腕を ふるいます。
- ④ おいしい 料理の 店内に 流れます。
- ⑤ おきやくさんたちは テーブルで 笑顔の 花を 咲かせました。

問二

次の文の 線部は修飾語（他をくわしく表す言葉）です。例文のように、線部がかかる言葉（被修飾語）を 線部より選び、記号で書きましよう。

(例) ごんは、いたずらばかり アして、イ兵十を ウ困らせました。 ア

- ① ごんは、ひとりぼっちの ア穴に イ住む ウ子ぎつねです。 ウ
- ② 兵十は、あみを アゆすぶって イいました。 ア
- ③ ごんは、うなぎの 頭を ア口に イくわえました。 イ
- ④ ごんは、くりを 兵十の アうちへ イ持って ウいきました。 ア
- ⑤ 兵十は、火なわじゆうを アばたりと イ取り落としました。 イ

☆ 線部の修飾語を他の言葉につなげてみよう。自然につながるところが答え（被修飾語）だよ。

